



山賀 清一 議員

行政一般について

質問 市の計画はハード面は勿論のこと、ソフト面での市内全域を見た場合の配慮が非常に欠如している。住民の苦情、要望が山積している中で積極的に徹底管理運営に力を注ぐべき時であるかどうか。特に市民の不安は防災関係である。想定外もあり得る。最小最低限の方策を具体的に市民に示すべき体制が必要と思うがどうか。観光立地とするには自然景観

の環境整備が必要不可欠。市の総合計画を具体的に積極策が重要である。住環境整備に力を注ぎ乱れた状況下では、災害時に対応対応は不可能である。樹木河川の整備手入れが不十分の為に地域住民は非常に迷惑で安全地帯とはほど遠い状態であり、関係管理機関に徹底させるべき時であるかどうか。道路両サイドの雑草盛土防去撤去を実施すべきであり、各農家組合などに管理委託を徹底すべきである。農家にはこれ以上の負担は無理で連携を図り整備体制が必要。インフラ関係の策が欠けている。市道舗装の損傷が目に見える場所をどう修繕補修管理をするのか市民の不満は非常に強い。以上の件についての市長の覚悟と決断を伺う。

の實現、地域経済の活性化、住環境整備の促進などに鋭意取り組む。路肩や法面の崩落が起きて危険な状況となり、道路水路管理は市と土地改良区関係機関と連携し、農家組合等と話し合い適正な方法と啓発活動に努める。道路舗装の損傷は事故に繋がる恐れがあることから、直ちに対応をしていく。



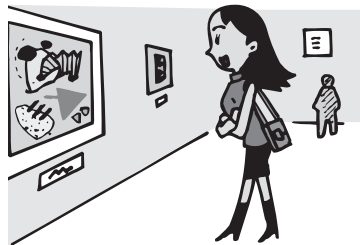
遠藤 智子 議員

高齢者の肺炎予防対策について

質問 新潟県後期高齢者医療広域連合では、国庫特別調整交付金で「長寿、健康増進事業」を実施し、市町村の高齢者健康づくり事業に費用助成している。肺炎の原因となる肺炎球菌はワクチン接種で予防効果が高いことから、一人3000円程度が補助されており、県内の市町村でも助成金活用での実施自治体が増加し

ている。
当市でも助成制度を活用してワクチン接種を推進すべきでは。
答弁 健康増進事業に対しては補助金の事業予算枠が限られていて事業按分等による運用を予定しており、実施自治体が増加の場合各市町村への補助金の減額が懸念される。また、国の特別調整交付金の交付基準が単年度ごとに定められるなど、安定した財源が見込めない状況のため、予防接種事業助成金については今後更なる調査・検討が必要と考えている。

②美術品等の管理、展示運営に専門知識を持つ人的配置が必要では。
③美術品等の保存活用には、初期投資が大前提となると考えるが。
答弁 ①今後、既存施設の活用などを視野に入れながら検討したい。②解析作業や目録、図録作成企画展には専門的な知識が必要であり、識見者の方々の協力や支援をいただく中で検討したい。③美術品の燻蒸や温湿度の管理、保存ができる収蔵庫の改修設置や分析作業をするための予算措置を行った。今後は美術品等の解析結果に基づいて市の対応を決めたい。



郷土ゆかりの美術品の保存、活用について

質問 出湯の二瓶文和氏の所蔵品である「竹久夢二」「折口信夫」「相馬御風」などの歴史的、文化的にも価値の高い美術品を阿賀野市が贈与受けたが、次の点を伺う。①美術品等の常設展示施設について。

総務文教常任委員会 常任委員会の活動

平成24年7月11日～12日に先進地研修を行いました。

宮城県登米市 東日本大震災の被害状況と対応について

震度5強から6強であった登米市の人的・住家被害の状況、災害対策本部の設置・関係機関との連携・消防体制・災害時医療体制・情報収集と伝達・避難所の開設運営・ライフラインの状況などの震災直後の対応、放射線対策などについてお聞きしました。

震災と同時の停電で電話回線などの通信手段が途絶え、防災行政無線も充電不足で一時放送中止となり情報の伝達・収集に苦慮したとのことでした。

岩手県葛巻町 新エネルギー導入の取り組みについて

葛巻町は「天と地と人のめぐみを生かして」を基本理念として新エネルギー導入に積極的に取り組む地域活性化につなげてきました。

はじめからエネルギーを生産する町を目指してスタートしたのではなく、酪農と林業を基幹産業としたまちづくりの中で、地域資源を最大限に生かす考え方・有効活用を模索した結果がエネルギー政策に結びつき、主に風力発電、太陽光発電、畜ふんバイオマス、木質バイオマスの4つの取り組みを官民一体となって行ったとのこと。

今後は、町の他の資源（水力、BDF、地中熱等）も有効活用し、何もないと思われている農山村地帯でもエネルギーを生産できることを実証し、エネルギーの地産地消に結びつけていきたいとのこと、地域の特性や資源を生かし、

平成24年8月7日に所管事務調査を行いました。

市内小・中学校の整備状況について

市内小中学校施設の耐震化率は、今年4月1日時点で63・8%、今後は24年度安野小学校、25年度水原中学校及び笹神中学校、26年度分田小学校、27年度山手小学校と順次完了予定で、27年度末には市内小中学校全てが耐震化となる計画です。

今年度施工中の安野小学校は、7月末現在で校長室、教務室、一部の普通教室と特別教室の内部、校舎棟の屋上防水及び耐震補強のピタコラム、耐震壁の設置が完了し、前回の所管事務調査時における改修等要望箇所も要望に応える形で改善されていました。



ゼロエネルギー住宅の展示
住宅内の冷暖房・給湯・電力全てを自然エネルギーで賄っている

地球環境問題に地域からも積極的に貢献し、市の発展に結び付けていくまちづくりに大変参考になりました。

登米市では今回の震災を踏まえ、地域防災力向上のため自主防災組織の代表者を集めての初期消火・救護訓練や一時避難所運営の模擬訓練を実施しました。大震災を経験した中での実践的な訓練は好評であったようです。

災害時における情報収集・伝達の手段、食料・電源・燃料の確保対策、避難所運営等を常日頃から取れる体制の整備が必要であると強く感じ、当市における災害に備えた安心・安全なまちづくりに大変参考になりました。